



令和元年 5月13日(月) 第6号



いじめについて考える「前編」



今日5月13日(月)は大阪市が制定した「いじめについて考える日」です。堀江中学校でも、全校集会で校長先生からいじめに関するお話があり、その後、各クラスでも取り組みをおこないました。私たちは、報道でいじめに関する悲しいニュースを見るたびに「いじめ」について考えます。そのため、頭では、誰もが「いじめはいけないものだ」と理解しているはずですが、心のどこかで「自分には関係がないことだ」、「関係がないことであってほしい」と思っているのではないのでしょうか。そう考えるとこそ“心の隙”が生じ、いじめの“第一歩目”を踏み出してしまったり、見逃してしまったりするのです。私たちは、常にいじめについて考え続けなければなりません。今日は、そのきっかけのひとつです。そこで、今回の学年だよりは、改めて「いじめ」について考える内容にします。まずは、私たち人間の「脳」の話から始めましょう。



人間の脳は、3つの層で成り立っています。いちばん内側は「脳幹」という部分で、**呼吸をする・食べる・眠る・排せつをする**などの命令を出す層です。この部分がないと、人間は生きていくことができません。ヘビなどの爬虫類にもある層で、【ヘビの脳】と呼ばれます。2番目は「旧皮質」という部分で、**喜ぶ・怒る・悲しむ**などの命令を出す層です。この部分がないと、喜ぶ・怒る・悲しむ、といった感情活動ができなくなります。哺乳類全般にある脳で、【ネコの脳】と呼ばれます。3番目(いちばん外側)は「新皮質」という部分で、これは、たくさんの哺乳類の中でも、私たち人間だけにある部分です。つまり、**考える・覚える・話す**などの命令を出す層です。この層は、人間だけにあることから【ヒトの脳】と呼ばれます。これらの3つの層がうまく働くことで、私たち人間は、元気に生きていくことができます。逆にいえば、「脳幹(ヘビの脳)」、「旧皮質(ネコの脳)」、「新皮質(ヒトの脳)」のうち、どれか1つの層でも働きが鈍ると、元気に生きていくことができなくなります。



- ◆ 脳幹【ヘビの脳】 = 呼吸をする・食べる・眠る等の命令を出す部分。
- ◆ 旧皮質【ネコの脳】 = 喜ぶ・怒る・悲しむ等の命令を出す部分。
- ◆ 新皮質【ヒトの脳】 = 考える・覚える・話す等の命令を出す部分。



《裏面の「後編」に続きます》



いじめについて考える【後編】



ここまで、私たち人間の「脳」の構造を紹介してきましたが、「いじめ」という行為は、前述した「脳の3つの層」のうち、ある部分を真っ先に攻撃します。どの層だか分かりますか？ そういうことを専門的に研究した結果により、「いじめ」は真っ先に【ヘビの脳】を攻撃する行為だと分かってきました。【ヒトの脳】を攻撃してその人の「考える力」や「話す力」を奪うのではなく、また、【ネコの脳】を攻撃してその人の「喜ぶ力」や「怒る力」を奪うのでもないのです。つまり、「いじめ」は、真っ先に【ヘビの脳】を攻撃してその人の「呼吸する力」や「眠る力」を奪う、すなわち、あらゆる動物が本能的にもつ「生きる力」・「生きたいと思う意欲」を奪う行為なのです。そして、その結果として、「喜ぶ力」、「怒る力」、「考える力」、「話す力」など、私たちからあらゆる“力”を奪います。「いじめ」という行為がいかに恐ろしい行為であるか、わかるのではないのでしょうか。



考えてみれば、私たち人間以外の動物の世界にも「いじめ」はあります。たとえば、ほえたり威嚇したりするなどの暴力的な行為で仲間を攻撃してグループから弾き出す、などといった行為がそれです。それは、動物の本能から出てくる行為なので、動物の世界では「仲間を攻撃する行為」・「いじめ」はなくならないと思います。しかし、動物の本能であれば私たち人間にも備わっています。では、私たち人間の世界でも「いじめ」はなくならないのでしょうか？ 答えは「ノー」ですね。

私たちは人間だからこそ「いじめ」をなくすことができます。なぜなら、私たちには【ヒトの脳】があるからです。前述したように、【ヒトの脳】とは、「考える」・「話す」といったことを可能にする脳です。つまり私たちは、【ヒトの脳】を使って「いじめ」行為のずるさやカッコ悪さなどについて、仲間と共に「考え」、「話し合う」ことができます。そうです、「いじめ」をなくすためには【ヒトの脳】が必要なのです。そう考えると、「いじめ」をなくせるのは「人間」だけかもしれません。「いじめ」について考え続けることは、私たちが「人間」であることの証であるといえそうです。



保護者のみなさまへ

先週 11 日(土)の授業参観および学年保護者集会・PTA 行事につきましては、ご参加いただきありがとうございました。特に授業参観では、子どもたちの学校生活の様子を垣間見ていただけたことと思います。授業参観以外にも、学校行事で子どもたちの様子をご覧いただける機会があります。1 人でも多くのみなさまにご来校いただけることを心よりお待ちしております。

さて、今回の学年だよりでは、「いじめ」に関する内容を扱いました。集団生活の場である学校では、「いじめ」問題について、加害と被害との両面において「自分にもあり得る問題だ」という意識を常にもっておく必要があります。たとえば、大型連休が終わったこの時期から、季節の変わり目と梅雨の時期が重なり、体調管理が難しくなります。それにより、心と体の調子が不安定になり、生徒間のトラブルも発生しやすい時期となります。加害と被害の両面で、どの生徒も関わる可能性があるのです。どうか、ご家庭でも「自分にもあり得る問題だ」という発想で、子どもたちの体調管理と些細な変化にご注意いただきたいと思います。ご家庭でお気づきのことがありましたら、早めに学校(担任)までご連絡ください。連絡を密にして子どもたちと接していきたいと思っております。